

JAMCA ジヤムカ ニュース

The Japan Automobile Maintenance Colleges Association

No.35

2002年10月1日

発行
協会事務局

編集事務局

全国自動車整備専門学校協会

〒160-0015 東京都新宿区大京町31

ヴィップ新宿御苑 ☎ 03-3356-7066

〒125-0002 東京都葛飾区西亀有3-28-3

☎ 03-3601-2535 FAX 03-3601-2988

ホームページアドレス <http://www.jamca.jp/>

教育は少子化時代の先端産業

日本自動車整備専門学校校長
全国自動車整備専門学校協会理事

今井 正弘

ユートピアでの少子化現象

今の日本は戦争もなく、衣食住、医療の面では行き着くレベルにまで来てしまっており、人類の文明が形成されて以来、何千年もの間、人が夢見てきたユートピアといっても過言ではありません。動物の世界であれば、爆発的にその数を増して当然の状況です。しかし、日本の場合、90年代の出生率は10年間で1.53から1.33に急落しています。

少子化の原因は複雑で種々の要因が絡まっていますが、あえて単純化すれば①自己実現への意欲（食べることには困らない）と女性の社会進出②新しい環境への挑戦意欲喪失（今が快適）があげられます。このいずれもが、晩婚化や自己犠牲を伴う子育て回避を招いているものといえるでしょう。先進国の少子化と貧困にあえぐアフリカ、インドの爆発的人口増加は正に皮肉な対称を示しており、見えざる神の手を感じる気がいたします。

少子化の先にあるもの

少子化により短期的に教育産業、幼児相手の産業が、続いてあらゆる産業で需要減退を招くことは自明の理です。当然、年金、医療制度の破



たんは避けられません。こうした社会的セーフティーネット崩壊が更に国民に将来不安を抱かせ、内需の萎縮のみならず、一層の少子化を招くことが予想されます。

解決策はあるのか

少子化には厚生労働省のみならず、全省庁あげて国家的に出生率低下要因の分析と総合的対策を早急に実施し、まず低下傾向に歯止めをかける必要があります。正に日本にとって最大の国家的課題といえます。しかし、こうした施策によっても、出生率を1.3レベルから2.0レベルまで引き上げることはもはや不可能でしょう。残された道はただ一つ、たとえ日本の経済規模は縮小しても、スイス、デンマーク並みの生活水準を確保する方法を探すことです。

人口減少の中で生活水準を維持するためには、国民一人当たりの生産

性を上げる以外しかなく、それを可能にすることこそ教育ではないでしょうか。国民一人一人が優れた資質と高い能力を身に付けることは、正に教育の目的であります。教育界は今、定員割れの厳しい環境にありますが、この苦しい時期を乗り越えた先には教育産業の復活が期待できます。

教育こそが究極の少子化対策

「どの学校を出たか」より「何ができるか」を問われることが今以上に多くなるでしょう。つまり、社会人としての実学を学ぶ専門学校の存在価値がますます高まってくるものと思われまます。寿命が延びることは、必然的に成熟までの学習期間が長くなることです。長期的な教育こそが究極の少子化対策であり、将来の日本を救う道である事を信じ、明るい希望を持って毎日の業務に励みたいものです。

■ CONTENTS ■

| | |
|--------|-----------------------|
| 2面 | OPINION |
| 3面 | 我が校自慢 |
| 4・5・6面 | 特集・一級課程新科 設立の2校に聞く |
| 7面 | 活躍卒業生・地区通信 |
| 8面 | 私の教材活用・編集後記 |